

公益社団法人水戸青年会議所

2018年度理事長所信

公益社団法人水戸青年会議所
第66代 理事長 益子直之

スローガン

「想望」

～市民に慕われる組織による未来の構築～

基本理念

未来へ繋げる人財による

夢と魅力が溢れるまち

国際都市水戸の新化

基本方針

- 1・未来へ夢を与えるまちづくり
- 2・責任感と想像力溢れる人財育成
- 3・組織を強くする会員拡大
- 4・水戸を飛躍させる国際
- 5・力強く水戸を牽引する組織運営
- 6・LOMの成長に繋がる出向者支援

はじめに

自分が生活している一分一秒が奇跡である。過去に先達たちが創り上げた歴史があり、今があることを真剣に思い感謝しなければならない。現代の生活は、物質的豊かさにより不自由することなく当たり前の日常を過ごしている。その当たり前の日常に感謝することを忘れてはならない。青年世代の我々が、過去を重んじ歴史を学び真剣に考え、この一瞬が奇跡であり大切な時間だと切に感じた時、ひとやまちに対して夢と希望の溢れる効果が期待できるのである。青年会議所メンバーは、日々の青年会議所運動を通してひとづくりの在り方やまちの未来の生末に対する課題を重要視し、未来への可能性を大きく抱き、我々の運動の効果が、大いに可能性のある明るい水戸のまちの姿へ繋がるものと信じてやまない。だからこそ、水戸の魁である我々が今注目されている課題は当然であるが、未来へと継承するために足枷となるまだ着手していない課題まで視野を広げ、我々の運動の指針として推し進めるのである。この愛する水戸のまちと住まう市民の無限の可能性が我々のビジョンと相まって、新たな奇跡がうまれるのだ。その為に、我々は絶え間なく挑戦する行動を続けて行こう。

我々は幾多の問題も未来の可能性に変えることができる。

想像してみよう。未来の住み暮らすまちを。

想像してみよう。自分の生末を。

想像してみよう。子ども達の未来を。

創造しよう。明るい豊かな社会を。

【未来へ夢を与えるまちづくり】

まちの景観は時が経つにつれ変わるが、過去の歴史は先々に継がれる変わる事のないものである。水戸の歴史を継承し歩みを止めることなく、私たちは繋いでいかななくてはならない。伝統文化や有形財産を生かしたまちづくりがもとめられる。人がまちに溢れ、活気のある街並みを見るのはここ近年少なくなった。市内周辺からの有名企業や大型商業施設の撤退も少なくなく、人口減少問題も重要視する必要がある。水戸のまちの海外への魅力ある情報や個性の発信はできているのか。何より地域住民への地域に対する関心はあるのであろうか。魅力溢れる住みよい水戸を、市民一人ひとりに可能性のある水戸の未来を創造させなければならない。まずは、世界第二位の広さを誇る偕楽園公園の魅力を再認識し、市民だけでなく他県、世界から多くの観光客が集い、「水戸が癖になる」事業を構築し、まちに活気が溢れる市民と共に連携の図れる事業を展開していこう。そして、我々が過去に積んだ経験や考えを生かし市民や水戸のまちに対して意識と責任を感じることで、青年世代の自覚を持った行動に結びつく事業を行政と連携し、市民による多くの意見や発想を主張でき、我々も幅広い検証結果を得ることができるまちづくり事業を展開しよう。その事業は確実に成長しながら市民に夢を与え、このまちの成長に大きな変化を与える事ができる。過去に行ってきた地域の伝統工芸を生かしたまちづくり事業の可能性をより引き出し、昨年度の事業を検証し展開しようではないか。市民一人ひとりの自覚と行動がまちを活性化させ、国際の魅力を生かした可能性を感じさせることで未来へ夢を与えるまちの成長になるのだ。

【責任感と想像力溢れる人財育成】

まちが豊かになるという事は、そのまちの市民の心が豊かになるということ。すべての物事において他人事ではなく真摯に受け止め、責任感を持ち、他人を思いやる心をもった人財が人を創る。歴史や伝統を重んじ、水戸を愛し水戸の未来を創造できる人財はまちを創るのである。国際都市水戸の魁として、我々は段階を踏み次のステップへ進むべきである。今後の日本社会に確実に国際化が進み水戸のまちにも訪日外国人が訪れやすい環境を市民と議論をし、まちその物が柔軟に対応できることが不可欠である。その基礎として、水戸の未来に対しての危機感や責任感を認識し自覚ある行動ができる人財が必要なのである。見えない方が困っていたら手を差し伸べることができるか。道を聞かれたら親切に教え、また目的地まで誘導できるか。その行動は親切なのではなく当たり前行動だと胸を

張って言える様々な物事にも耐えうる、日常に海外とのコミュニケーションすらも率先して対応できる国際意識の高い人財を育成していかなければならない。その基礎は青少年の道徳や情操教育からも大切であり、過去より我々水戸青年会議所が脈々と継続している「ちびっこ広場」では、次世代育成や交通安全啓蒙活動は勿論のこと身近に問題視される少子高齢化や子育て人口減少など社会的課題を加えたより可能性のある、市民が着目する事業に進化をさせ新たな可能性を感じる事業に進化しなければならない。市民と共に諸問題に対する考え方や責任ある行動、他人やまちを改めて見つめ直すことにより、責任感と想像力溢れる人財が育成されるのである。

【組織を強くする会員拡大】

人口減少や景気低迷、少子高齢化など様々な条件も重なっている中で、そのような課題が山積のこの時代だからこそ、一人でも多くの同士が必要である。会員拡大の戦略は年々変化がみられるが、ここ近年のメンバー数の増減はほぼ横這い傾向であり、会員拡大は永遠のテーマである。青年会議所運動を力強く発進をしたくとも、志を共にする多くの同士が居なければその発信力は最大限生かせることができない。組織力となる会員拡大が急務なのである。まずはアカデミー事業を通して青年会議所運動を改めて再認識し、自分が青年会議所メンバーであることを誇りに思い、我々のひとやまちに対する考えや運動の魅力を発信する事である。そして、活動の辛さや事終えた時の達成感、自分の成長まで経験し、自らが成長している過程を入会に可能性のある候補者に多く伝える機会が拡大運動の質を高めることができるのである。我々の活動の趣旨や活動効果、組織の価値観を最大限に伝播する事で、自ずと同士は募られると確信する。大きな拡大目標を掲げて例年にない新たな戦略を構築し、拡大運動を邁進しよう。少しでも可能性のある情報を集約させ核とし、組織全体での共有を徹底し、さらに先輩諸兄や各諸団体との連携を図りながら効果的な手法による会員拡大に日々心がけよう。

【水戸を飛躍させる国際】

2016年、我々は苦しくも達成感を味わった国際アカデミーを開催した。その効果は絶大で水戸は国際に関して深く考える機会になったであろう。昨年度は国際の魁となるべ

く、行政へ国際ビジョンからなる提言書を提出した。その提言書を基に、戦略課題を常に進化をさせながら行政と共にまちの進化に向けて国際都市水戸の魁として取り組んでいかなければならない。昨年は台湾、嘉義青年会議所との姉妹提携を結び、さらに今後の国際の意識を高める機会になった。その記念すべき一年目として、嘉義青年会議所との友好を更に深め、お互いを尊重しながら互いのまちに価値を見出す運動を模索しなければならない。それぞれのまちにより良い効果を与えるきっかけを考え、それぞれの益となる互いに連携した事業を構築しよう。必ず多くの新鮮な学び得る事ができ、水戸の成長となりにより無限大の可能性が得られるはずである。

【力強く水戸を牽引する組織運営】

水戸青年会議所は65年間の歴史で培われた組織である。この先も歴史が確実に曇りなく引き継がれるために、質の高い組織運営を心掛けなければならない。ガバナンスの強化を着実に進めてきたこれまでの結果が、この先も公に対してより力強く手本となる組織で在り続けよう。財政面においては、一つひとつの事業において明確な判断や確認を怠ることない透明性のある運営が格式ある水戸青年会議所としての基礎となる。公益社団法人格を取得してから5年が経過し、公の組織として知識の取得や運営は着実に身につけているが公に対する組織としての基本ルールを今一度再認識し、決して妥協する事のない誠実な組織運営を心かけよう。またメンバーが一丸となるための心がけを常に忘れることなく、運動に対する意識付けや参加意欲に繋がる設えを考え行っていこう。4年後には水戸青年会議所は70周年という節目の年を迎える。水戸青年会議所の過去の偉大な歴史を鑑み、脈々と引き継がれるこの組織の質をより醸成させ、さらに高みを目指していかなければならないのだ。水戸青年会議所のメンバー同士の連携と質を更に高め、より追及する事が力強く水戸を牽引する組織運営の基本となるのだ。

【LOMの成長に繋がる出向者支援】

水戸青年会議所が今こうして素晴らしい運動発進が出来ている事は、歴史を紡いでこられた先輩諸兄が積み重ねた結果である。過去に出向者の輩出により、各方面で活躍してきた多くのメンバーが学びと経験を積み重ねた努力により、現状の組織運営のための知識や

運動意欲になり水戸青年会議所の今に生きているのである。水戸青年会議所を代表して出向するメンバーは不安な中にも勇気と責任感を持ち水戸青年会議所の看板を背負い、日々代表として各所に出向している事を忘れてはならない。だからこそ、組織全体で出向者と共感し力強く後押しをしよう。そして活動している姿を全メンバーで称え支えよう。また、一年間の諸大会にも積極的に参画していこう。出向者へ間違いなくこころを寄せることになるはずである。我々も積極的に参画した結果、多くの学びとL O Mの垣根を超えたメンバー交流になるからである。結果として、必ず出向者メンバーの責任感や自信となり、また支える側の成長となり、その効果が組織の強みになり、ひいては水戸青年会議所の成長に繋がるのだ。

【終わりに】

今日は久しぶりの休暇。国際都市水戸のまちに足を延ばした。都心からは常磐新幹線で 30 分。水戸駅に到着する。水戸駅前には多くの商業施設が立ち並び、銀杏坂は多くの歩行者で賑わっている。駅前からは観光地に向けシャトルバスに乗り込む訪日外国人で溢れている。ここ近年まちのブランド化も進み観光客が増え賑わいを見せ、世界第二位の面積を誇る偕楽園公園内の千波湖周辺には市民が触れ合う場としてステータスになっている。また千波湖を見下ろすことのできる偕楽園は日本三大名園の一つで市民の誰もが胸を張って自慢できる財産で外国人の観光スポットとして定着し、周辺には道の駅や宿泊施設も充実している。関東圏のインフラ政策の効果や茨城空港の需要も高まり、他県からの観光客や外国人にもアクセスの良さが好評であるようだ。近郊に大きな企業が増えビジネスで訪れる外国人も増え、国際を意識したまちづくりを行政がしっかり取り組んでいる。まちの景観も歴史を感じる風景で整備され近代化とのバランスが取れたまちづくりが進んでいるようだ。市民会館も市民がいつでも利用できる便利な施設で自分の会社でも会議室をよく利用する。週末には大ホールで有名アーティストのコンサートなどが開催され若者の元気の源になりまちの元気に繋がっている。また茨城県内の観光名所には水戸市内の街角からシャトルバスが運行され水戸だけでなく県内各地に観光客が後を絶たない。水戸はここ近年で大きく成長した。行政の変革なのか。いや、市民ひとり一人の意識が変わったのではないだろうか。おもてなしの心、地域を愛する心、水戸の人たちは温かい。日本人って感じがするよ。

また週末遊びにこよう。

我々が夢を描こう。可能性が満ちているのだから。

我々が責任を感じよう。時代の継承者なのだから。

我々が行動しよう。未来を担う子ども達のために。